

そうじの力だより

VOL.223



支援レポート

キレイな職場から「使える」職場へ
活動7年目の進化・深化

兵庫県丹波市の株森田石材店。六年前から、弊社のお手伝いにより、環境整備の活動に取り組んでいます。

当初はモノが多く、事務所、工場、倉庫、石材置場、販売拠点ともに、こちゃこちゃとして、どこに何があるかわからないような状態でした。

まずはセオリー通り、不要なものを捨てることからスタートしました。

ところが、抵抗勢力が現れます。長年使用実績のない石材在庫を捨てようとする、当時まだ健在だった会長(社長の御父上)が猛反対。「石を捨てるのは何事か!」というわけ。

社員の中にも、会長と一緒に頑張って抵抗する人や、周りが活動している中で、頑強に何もしない人など、ベクトルが揃わない状態です。

実は森田茂樹社長自身も、当初は石を捨てることになり抵抗があったと言います。売れようが売れまいが、石をたくさんストックしておくのが石材屋の誇り、という従来の常識から脱却できないのです。

しかし、ある時期に、「何年も売れていない石材が、今後売れることはない」と踏ん切りがつき、大量にストックしてあった石材在庫を一気に粉砕して処分したのです。ここから、同社の環境整備の活動が、加速します。

当初抵抗していた社員も、頼もしい協力者に変わったり、中には自ら退職していった人もいて、結果として社内

ベクトルが合うようになりました。

これまで石材で埋まっていたエリアにスペースが生まれたおかげで、入荷した材料の検品がしやすくなり、さらに、トラックやユニックなどの車輛も、屋根の下に駐車することができるようになりました。



研磨パッドを分かりやすく整頓

工場内は、グラインダーや研磨パッドなど、工具や治具を、どこに何があるのか、誰が見ても一目でわかるように整理・整頓を進めました。

また、コンクリート打設の技術を生かして、工場内の床面を平坦に整えたり、切削用の水が飛び散らないように、機械の周りに溝を切ったりと、工夫を重ねて、使いやすくしていただいています。

販売拠点においては、こ



機械周りに溝を切って排水を良くした

れまでの各人の固定デスクを廃止して、フリーアドレスにしました。これまた抵抗する人がいたのですが、時間をかけてじっくり進めることで、全員納得してフリーアドレスにすることができました。おかげで机上がクリアになり、動線も良くなりました。書類なども、各人が抱えていたものを共用棚に移すことで、「それぞれの知見を社内で共有する」意識が芽生えてきています。

そして、活動七年目となる今期は、あらたに「より使いやすい環境づくり」をテーマにして取り組んでいます。

たとえば工場内。これまでは、整理・整頓を進める中で、共用の工具をワゴンに集約し、それを作業する機械の脇



販売店の事務所のデスク(After)



販売店の事務所のデスク(Before)

に持つていつて使っていたのですが、実際に使う段になると、そのワゴンを移動するのが意外に面倒なことがわかってきました。また、同時に複数の機械を動かすこともあり、それだとワゴンでは対応できません。

やはり、各機械を動かすのに必要な道具は、それぞれの機械のすぐ脇に配置した方がいい、という結論に至りました。

現在は、そうした「より使いやすい環境」に向けて、各所で改善が進んでいます。

それ、これも、これまでの六年半の活動で、社内がスッキリし、どこに何が、あるのかが一目でわかる状態になったからこそ、浮かび上がってきた課題であり、得られた成果であると言えます。これまでの道のりは、決して無駄ではありません。

環境整備は、目の前のステージをクリアすると、また次のレベルのステージが現れ、それを一歩ずつ登っていく取り組みです。環境整備に終わりはありません。(小早)



森田社長(左)とリーダーによる現場巡回

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

能登半島地震に思う
〜普段の備えと自衛隊〜

能登半島地震で亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表します。また、現在も避難生活を強いられている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

実は、私の妹が、旦那の実家(石川県羽咋市)に家族で帰省中に、現地で被災しました。家屋が倒壊寸前で、近くの学校の体育館に避難したのですが、当初は断水し、水も食料もなく、かなり厳しい状況だったようです。

その後、近くの公民館で水が出たのとことで、どうにか最低限の生活はできるようになり、実家の片づけもポチポチはじめて、先づ無事に現地を離れて、自宅のある兵庫県姫路市に戻ってくることができました。

そんなわけで、今回の大震災は、私にとっても他人事ではなく、あらためて、地震に備えて何をすべきか、考える機会になりました。

さつそく、わが家の防災グッズを点検してみました。ヘルメット、ライト、ガスランタン、固まるトイレ、手回しラジオ、サバイバルナイフ、乾パン……

水は、飲料水の他に、洗面用として十二リットルタンクを二つ常備しているのですが、これでは足りないと思い、さらに同じタンクを二つ買ってきました。

また、冬場の停電時に暖を取れるように、カセットコンロ式のストーブも、購入しました。

こうして準備をしていますが、実際に被災した時には、足りないものがたくさん出てくるのでしょから、せめて、想定できる

ものは、おつくうがらずにしっかりと準備しておかねばなりませんね。

それから、我田引水になります。やはり普段からの整理・整頓は大事です。

使いたくないモノが大量にあれば、いざ被災した際には、それらが邪魔になり、命を救い、健康を維持するための行動がとりづらくなってしまう。

また、いざという時に、どこに何があるのかがわからなければ、余計な労力を費やしてしまいます。

復旧・復興の段階においても、普段の整理・整頓が行き届いていれば、スムーズに進めることができるでしょう。

とはいえ、実際に今回の能登半島地震のようなケースでは、救助や給水、道路網の復旧、食料や避難物資の配給などは、自衛隊や消防、警察などに頼らざるを得ません。東日本大震災でもそうでした。こうした時の自衛隊の活躍は、実に頼もしい限りです。

私たち一般市民にできることは、限られています。できることと言えば、防衛予算を潤沢につけてあげることでしょう。

それにしても、普段、「防衛予算の増額は、戦争につながる」と言っている人たちは、こうした自衛隊の活躍を、どう見ているのでしょうか？ (小早)



編集後記



上州路

毎年元旦は、ニューイヤー駅伝のテレビ中継を観てはじまる、という方も多いかと思います。

ところでこのニューイヤー駅伝、どこを舞台に走っているかご存知ですか？そう、わが群馬県です。



前橋市の群馬県庁をスタートし、高崎市、伊勢崎市、太田市、桐生市を巡り、県庁に戻ってくる100kmのコース。わが家のすぐ近くを通るので、いつも沿道で観戦しています。

実は群馬県、新年から結構メジャーなのです！(小早)

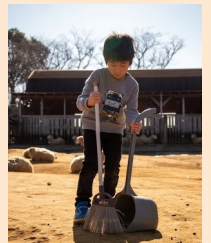
飛鳥のつばやき



おしごと

子どもたちと牧場に行きました。

真冬でじっと日向ぼっこしている動物は面白くないらしく、羊とヤギをちょっと撫でて早々に退散。



動物のフンをお客さんが掃除できるように置いてあるホウキとチリトリで、うんちを集める方が面白かったらしく、せっせと収集に勤んでいました。

うん、とても素敵なことよ！

でも母は、ヤギや羊たちを撫でる子供たちの写真を撮りたかったんだよな〜！ (大概)

株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ=環境整備”を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)

X(旧ツイッター)で、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！